

ずらかへく急し如がく行を道き遠てふ負を荷き重は生一の人

▲宇佐川總裁▼
(五) 翠山

或る都に於けり世人が男の人物に對して是非の批評を試みるに要するに男が他に對して圭角なく常に雍容の氣を示し加ふるに堪へ度闊大天濶うして鳥の飛に任せ海濶うして魚の躍るに任せ底かゝの雅俗を偏局的に觀察したる結果の外なきべからしめて觀侯及び寺内伯其の他の諸先輩が男を信任せし所以のものは要するに此の性質と技能とに依るべけんも輕躁にして重厚の質を缺き、浮薄にして眞實の實に乏しき伊藤公の其の自己と正反對なる性質の男と今日に示る迄も信任して離るる所以は公が從來経験上尤も珍らしきことといはざるべからしと思ふに是れ男が唯に他に對して圭角なく現はざるは公が對して亦亦然然とし圭角と現はざるは常に雍容の氣象を以て公接するが爲めか又公に取つて別に見る所にか余氣と雖も之が特許に苦みざるを得斯くて男は日韓協約の締結に盡力して伊公と共に歸朝するや依然軍政の權機を總

● 青楓

悶を抱いて、渡江畔を逍遙ふ。
苦しき火熱の現世を去つて、樂土の天國
につくに若かずと思ひてなり、天國果して
ありや、と又も苦悶は我が胸を打てり、ア
何ぞ天國のありとなしとに、我の聞せん
や、我が喉、現世の苦悶を避け得れば足れ
るのみ。

去つて鐵橋に上る、見よや、坦々たる江
面の美感、我が半世の汚れたる失敗を洗ふ
に過ぎずや。我が死は來れる、さらばよこ
身を棄ばんと、とどき、水夫だ冷たし、苦
痛却つて多し、止ま水上の死と嘆くもの
り、我は思ひ憂ひぬ。

遠く長蛇の煙を吐いて、疾驅し來るを
見る、我が去つて、鐵路上に横はりぬ、塵
々たる響の刻々に迫ると同時に、我が運命
も亦近けるなり、長蛇は目前に來れり、あ
はれ、我が身は四散滅裂せんとするの刹那
果敢なくも我が夢は破れぬ。

● 新 刊 紹 介 ●

被 記 事 者 ひと 七 十 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

一、東京經濟雜誌（千四百八十五號）前製の
記事は桂内閣と社會政策及坪谷氏の東京獨方
記の必要は最も一讀の價値あり（東京獨方
新聞經濟雜誌社）

二、京の朝鮮（第一號）韓國に於ける唯一の
經濟的雜誌なり材料豊富記事明快半島經歷
に從事するもの應有缺く可らざるもの也
（大和町二丁目京の朝鮮社發行）

三、韓國經濟月報（一號）財務省報の附録と
して度支部の發行に據るもの貿易金融物物
を統計的に編纂したるもの參考資料として
必要のもの也

四、商情公報（三號）毎月一回統政府特許
より發行するものあり（發賣所日韓會房）

佐倉宗吾

(五十四) 眞龍燦貞水講演

韓國の事情に精通、東拓總裁としての手
如何はナク指さし、梨花嫁の中に於て開闢、日
んには恩がけの所は丁寧に懇諭し呉れ、日
の所は切心に説得して丁寧に懇諭し呉れ、日
が爲めなり、胡テ好んで信任がけさるる事
得盡と順正の境を去らして從來に願ふ
き新吉の府に押し込め、如き路を敢てせ
き又男愛に至つて柔順の婦に當れどし
韓國に來り伊達／＼しく其の勢に當れどし
然るに勇たる伊達／＼は更に男の職責に向
て世話の手を下さず、平然として母國の
花に懷がれつゝあり而も會社に對する世

御念ふ古川の御下屋敷へ到着したから、百
 五十六の御と御屋敷へ入るゝ時、はな
 一の脚に足輕が氣を注いで居たが、如何した
 御門内へ入るゝ時に、辰右衛門が小隠れに
 つかれた、足輕は氣が注がなかつた
 づいて、一同を門内へ入れるど、ヤイ
 門を締めて、そこで辰右衛門が、塀へビ
 たり附着いて、御屋敷内の窓子を覗つゝ、そ
 のと暫く経つて、舞臺の役者を幾つゝ、そ
 だから云はねねこんちやねね、大和様の
 言葉だなんて、俺を欺くらがして、此様
 處へ生擒に爲つしやつた、希か赦してく



つせに「乙」痛んだ、うんな事をしな。遂かない服の締め方がそれでないか。「乙」脱
俺アれたちんで仕舞うつては、助けてくら。馬鹿いへ、確かにそれに
つせぬや。丙 罪も科もねわ者を、そんな事。應を云ふな。實に此方は昨夕な、麻布
をするつて法があるけね、サア、殺すなら登。御下屋敷へ、御駕籠訴に及ばうとした。
とするとつて法があるけね、サア、殺すなら登。御下屋敷へ、御駕籠訴に及ばうとした。
せつ。と云ふ聲が塙の外に溢れて、辰右衛門。御分の百姓を作れて往つて、空長屋二種へ
門監いて「大太殿だ、是はア普るな。」と押込んだんだ。甲「ホー、乙」どうも偉いもん
屋敷で首きられて仕舞うだ、ガカも云はね。丁 堀出大和様ア御若いけれども。甲「ホー、
何事でねわ、俺女様の云つた通りだ、ア、何事が偉い。乙」何事が偉いつて、百姓を
良い日を送つた、阿しる齋宮様の御堂までして、麻布吉川の御下屋敷へ連れ込み、
駈付け、六人の庄屋衆に、此事を云はなき。後もし切つて、之を二人も通さぬで、牛糞
やなんねわ」と、夫から辰右衛門が、若いに仕舞つた、すると百姓が其事を覺
一心、宙を飛んでトッ、淺草親音の御前にもんだから、助けてくれわいと云ふ奴。
堂へ来て、六人の名主様を探して見たが、あゝ組み付いて来る奴がある、どうも
既う夜明けに近い頃ほひで、姿は見えないはあはし大勢だから、漸うな事で暮れる
「事に依つてお斯りや、此方より御座敷に引致をまん轉じて、長屋へ放。込み、ちよん
られて、皆でも斬られて仕舞つたのでねわ締りを附けて、全引揚げて来なければぞん
か、それに違へねわ、宿は何處だか分んまな。乙 志氣をした、中には泣く奴が
わから、尋ねる事もなんねわが、あんでも、殺すなら此處でいま殺せ、なんて囁
ハアそれに違へまかねべわ、それぢや俺で、昨夕は做障とも爲ない、是から町司
此處へ等々懸頭して居た日にや、斯り私囚へで



第一學年
第二學年
出願期日
一入學試驗
一試驗場
入學志願者ハ明治四十二年四月七日及十一日ノ當地發行ノ各新聞登載ノ入學願書ニ應願書ヲ添ヘ京城居留民團役所ニ差出シテ受驗心得書ヲ申受クベシ

右公告ス
明治四十二年四月十三日

京城居留民團民長 熊谷頼太郎

熱誠敏速ニ法律事務ヲ取扱フ（紹介ヲ要セス）
京城旭町一丁目六十七番戶
辯護士 岡田 榮
（電話三九八番）

生 蕎 麥

電話
開通
九五五番
東京庵
壽町三丁目

待合
 春日
 電話九七〇番
 東京市山手区
 芝田町三丁目
 芝田町三丁目
 芝田町三丁目

登記漢城府手續
諸願肩代書民役所前
土地鑛山測量岡田事務所
集金取立代辨
土地家屋買賣其他
金融貸借諸般仲介
電話七〇五號

金 四 錢



廣江商會
京城
電話五七六番

電話
九九〇

電話開通 牛豚雞肉
二四一 石田精肉店

直輸入商
京本町二丁目
開三丁目
辻屋

本店 電話四八二番
支店 電話三六六番

シガール・ブドウ酒・ブランデー・洋菓子・菓物・罐頭・水・卸・小賣
シガール・ブドウ酒・ブランデー・洋菓子・菓物・罐頭・水・卸・小賣
シガール・ブドウ酒・ブランデー・洋菓子・菓物・罐頭・水・卸・小賣



王子嬢の初戀

天に在りては星となり地に在りては花となり人に在りては戀となるは美なるはしきものなり是れは王子嬢の初戀なり

王子嬢は、その美しい容姿と、優雅な振舞いで、周囲の人々を魅了していた。彼女の初戀は、ある春の日の午後、公園で出会った少年と始まった。少年は、王子嬢の笑顔を見て、心から嬉しさを表現し、二人はそこから離れないうちに、互いに心を通じ合っていた。

六人組の強盗

●京の市中に現はる

六人組の強盗が、京の市中に現れた。彼らは、金銀財宝を略奪し、逃げ去った。市民は、この強盗団の出現に驚き、警戒心を高めている。

短銃は軍刀を以て

●香屋の殿打

短銃は軍刀を以て、香屋の殿打。この言葉は、短銃の威力と、殿打の勇気とを表現している。

實験色の抑制法

●衛生新聞

實験色の抑制法、衛生新聞に掲載された。この方法は、色の抑制に効果的であるとされている。

親の不注意

●京城地判

親の不注意、京城地判で審理された。この事件は、親の不注意による被害を扱っている。

花奴の政略

●京城の政略

花奴の政略、京城の政略。この物語は、花奴の政治的な野望を描いている。

演藝界

●京城の演藝界

演藝界、京城の演藝界。この記事は、京城の演藝界の現状について述べている。

韓語獨習

●京城の韓語獨習

韓語獨習、京城の韓語獨習。この本は、韓語を独習するための教材である。

韓童の排日思想

●負た子は殺し

韓童の排日思想、負た子は殺し。この物語は、韓童の排日思想を描いている。

親の不注意

●京城地判

親の不注意、京城地判で審理された。この事件は、親の不注意による被害を扱っている。

花奴の政略

●京城の政略

花奴の政略、京城の政略。この物語は、花奴の政治的な野望を描いている。

演藝界

●京城の演藝界

演藝界、京城の演藝界。この記事は、京城の演藝界の現状について述べている。

韓語獨習

●京城の韓語獨習

韓語獨習、京城の韓語獨習。この本は、韓語を独習するための教材である。

待合

●京城の待合

待合、京城の待合。この物語は、京城の待合を描いている。

眼病薬の大王は永楽町二丁目丸一薬房

●永楽町二丁目丸一薬房

眼病薬の大王は永楽町二丁目丸一薬房。この薬房は、眼病薬の専門家として知られている。

富川氏製剤の眞珠白龍丹

●富川氏製剤の眞珠白龍丹

富川氏製剤の眞珠白龍丹。この製剤は、富川氏の研究によるものである。

待合

●京城の待合

待合、京城の待合。この物語は、京城の待合を描いている。

待合

●京城の待合

待合、京城の待合。この物語は、京城の待合を描いている。

待合

●京城の待合

待合、京城の待合。この物語は、京城の待合を描いている。

朝鮮紳士録

本録は、朝鮮紳士の名簿であり、紳士の身分、職業、住所などを記載している。これは、朝鮮紳士のネットワークを構築するための重要なツールである。

発行所：京城、西門外、新王城、北署、中署、南署、大門、通

豫約募集

本録は、豫約募集のシステムを採用している。これは、紳士の身分、職業、住所などを記載している。これは、朝鮮紳士のネットワークを構築するための重要なツールである。

発行所：京城、西門外、新王城、北署、中署、南署、大門、通

待合

本録は、待合のシステムを採用している。これは、紳士の身分、職業、住所などを記載している。これは、朝鮮紳士のネットワークを構築するための重要なツールである。

発行所：京城、西門外、新王城、北署、中署、南署、大門、通

待合

本録は、待合のシステムを採用している。これは、紳士の身分、職業、住所などを記載している。これは、朝鮮紳士のネットワークを構築するための重要なツールである。

発行所：京城、西門外、新王城、北署、中署、南署、大門、通

五

東京本町四丁目
茶器商 青々園茶鋪

大阪鐵工所韓國代理店
 仁川濱町一丁目(電話長八三番)
 合資會社 長醫商會仁川出張所
 合資會社 長醫商會韓國出張所

[illegible]

奉如何なる強雨に遭ふも確固とな

●廣告料
 廣告五張字十九字額一行一單五十
 廣告十張字十九字額一行一單五十
 廣告二十張字十九字額一行一單五十
 廣告三十張字十九字額一行一單五十
 廣告四十張字十九字額一行一單五十
 廣告五十張字十九字額一行一單五十
 廣告六十張字十九字額一行一單五十
 廣告七十張字十九字額一行一單五十
 廣告八十張字十九字額一行一單五十
 廣告九十張字十九字額一行一單五十
 廣告一百張字十九字額一行一單五十

發行所 東京 城新報

電話 六六